

学長候補者推薦書

令和 6 年 10 月 4 日

国立大学法人鳴門教育大学
学長選考等会議議長 殿

所属・職名 理事（教育・改革・国際担当）

氏名(自署) 梅津 正美



学長候補者として、学長候補者調書、主要業績、所信表明書を添付の上、以下の者を推薦します。

(ふりがな) 氏 名 (年齢)	さこ ひでかず 佐古 秀一 (71 歳)
現 職 名 (又は最終職名)	国立大学法人鳴門教育大学長
連 絡 先 (学外者のみ記入)	〒 (TEL - -)
推 薦 理 由	佐古秀一氏は、令和4年4月の学長就任後3年間、強力なリーダーシップを発揮され、第4期中期目標・中期計画達成の土台を築かれた。 教員養成改革では、令和5年度からの学士課程におけるセルフデザイン型学修の実施を主導された。同じく令和5年度からは、四国5大学による連携教職課程を推進されている。さらに、「ハイフレックス対応・EdTech活用の学修環境の実現」、「教師のための AI・DS 研究開発センターの新設」等斬新なアイディアで施設・組織整備に係る国からの予算獲得にも大きな実績を上げてこられた。 本学がこれらの取組により社会的インパクトを創出するためには、第4期後半3年間についても佐古学長の指導力、牽引力が不可欠である。以上の理由から、次期学長候補者として佐古秀一氏を推薦するものである。

備考 所信表明書は学長選考等会議が特別な事情があると認めた場合、提出を要しない。
特別な事情がある場合は、書面(様式自由)により所定の期日までに学長選考等会議へ申し出る。

私は、学長候補者として推薦されることに同意します。

令和 6 年 10 月 4 日

氏 名 佐古 秀一



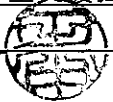
学長候補者推薦書

令和6年10月4日

国立大学法人鳴門教育大学

学長選考等会議議長 殿

所属・職名 理事（研究・入試・学生支援担当）

氏名（自署） 田中 弘之  印

学長候補者として、学長候補者調書、主要業績、所信表明書を添付の上、以下の者を推薦します。

（ふりがな） 氏 名 （年齢）	さ こ ひでかず 佐 古 秀 一 (71 歳)
現 職 名 （又は最終職名）	国立大学法人鳴門教育大学長
連 絡 先 （学外者のみ記入）	〒 (TEL — —)
推 薦 理 由	小職が所掌する業務の範疇において、佐古秀一学長の適確なる指揮により得られた特筆すべき成果の一部を下記に列举する。 【研究】文部科学省への概算要求「教師のための AI・DS 研究開発センター（仮称）」の新設等，教育研究組織改革分を獲得した。 【入試】文部科学省への概算要求「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化」を獲得した。また，大学院入試において，オンライン入試の拡充，教職大学院における遠隔教育プログラムの新設等，入学定員確保のための新機軸を打ち出した。 【学生支援】学年進行に伴う教職志望動機の消長等に関する経緯について精査の上，その対策を講じ，また，コロナ禍で低減傾向にあった学部学生の教員就職率を再び日本一へとV字回復させた。 以上，佐古秀一学長の第一期在職期間中の功績は，誠に多大であり，今後のさらなる本学の発展のために，次期学長候補者として最適任であると思量され，ここに推薦する次第である。

備考 所信表明書は学長選考等会議が特別な事情があると認めた場合，提出を要しない。

特別な事情がある場合は，書面（様式自由）により所定の期日までに学長選考等会議へ申し出る。

私は，学長候補者として推薦されることに同意します。

令和 6 年 10 月 4 日

氏 名 佐古 秀一 

学長候補者推薦書

令和 6 年 10 月 7 日

国立大学法人鳴門教育大学
学長選考等会議議長 殿

推薦代表者
所属・職名 鳴門教育大学 教授
氏名(自署) 小田 芳明
推薦者
氏名(自署) 義田 伸司
氏名(自署) 湯 雅史
氏名(自署) 内藤 隆
氏名(自署) 松井 敦典

学長候補者として、学長候補者調書、主要業績、所信表明書を添付の上、以下の者を推薦します。

(ふりがな) 学長候補者氏名 (年齢)	さこ ひでかず 佐古 秀一 (71 歳)
現 職 名 (又は最終職名)	鳴門教育大学 学長
連 絡 先 (学外者のみ記入)	〒 (Tel - -)
推 薦 理 由	令和4年度より本学学長就以降、連携教職課程設立、大学院学部教育改革等、本学の将来を見据えた大学運営に積極的に関わり、是非引き続き本学の大学運営を進めて頂きたい。

備考 所信表明書は学長選考等会議が特別な事情があると認めた場合、提出を要しない。
特別な事情がある場合は、書面（様式自由）により所定の期日までに学長選考等会議へ申し出る。

私は、学長候補者として推薦されることに同意します。
令和 6 年 10 月 7 日
氏 名 佐古 秀一

学 長 候 補 者 推 薦 書

令和 6 年 10 月 4 日

国立大学法人鳴門教育大学
学長選考等会議議長 殿

推薦代表者
所属・職名 学長選考等会議議長 教授
氏名(自署) 吉井 秀一 印
推薦者
氏名(自署) 吉井 健治 印
氏名(自署) 江川 克弘 印
氏名(自署) 湯田 元樹 印
氏名(自署) 小澤 大成 印

学長候補者として、学長候補者調書、主要業績、所信表明書を添付の上、以下の者を推薦します。

(ふ り が な) 学長候補者氏名 (年齢)	さこ ひでかず 佐古 秀一 (7 1 歳)
現 職 名 (又は最終職名)	国立大学法人鳴門教育大学 学長
連 絡 先 (学外者のみ記入)	〒 (Tel — —)
推 薦 理 由	現学長として、高いリーダーシップを発揮し、大学の改革を進めており、大学の置かれた困難な状況を考えると、さらに3年、改革を進めることが求められるため。

備考 所信表明書は学長選考等会議が特別な事情があると認めた場合、提出を要しない。
特別な事情がある場合は、書面（様式自由）により所定の期日までに学長選考等会議へ申し出る。

私は、学長候補者として推薦されることに同意します。
令和 6 年 10 月 4 日
氏 名 佐古 秀一 印

学長候補者推薦書

令和 6 年 10 月 7 日

国立大学法人鳴門教育大学

学長選考等会議議長 殿

推薦代表者

所属・職名 学長選考等会議議長・教授

氏名(自署) 久我直人

推薦者

氏名(自署) 塩路晶子

氏名(自署) 志山明義

氏名(自署) 池田誠吾

氏名(自署) 藤原伸彦

学長候補者として、学長候補者調書、主要業績、所信表明書を添付の上、以下の者を推薦します。

(ふりがな) 学長候補者氏名 (年齢)	(さこ ひでかず) 佐古 秀一 (71 歳)
現 職 名 (又は最終職名)	国立大学法人鳴門教育大学学長
連 絡 先 (学外者のみ記入)	〒 (Tel — —)
推 薦 理 由	佐古秀一氏は学内外からの信頼を得、大学運営に関わる明確なビジョンを有し、多面的な戦略の下に、教育と研究、地域連携の充実に努め、本学の充実・発展を具現化することが期待される。

備考 所信表明書は学長選考等会議が特別な事情があると認めた場合、提出を要しない。
特別な事情がある場合は、書面（様式自由）により所定の期日までに学長選考等会議へ申し出る。

私は、学長候補者として推薦されることに同意します。

令和 6 年 10 月 7 日

氏 名 佐古秀一

以下，提出のあった「学長候補者調書」，「主要業績」及び「所信表明書」については，同様の内容であるため，１部のみ添付する。

鳴門教育大学学長候補者調書

令和6年10月4日

（履歴事項関係）

ふりがな 氏名		さこ ひでかず 佐古 秀一	男	生 年 月 日 昭和 28 (1953) 年 5 月 11 日 (71 歳)
現 住 所		[REDACTED] (TEL [REDACTED])		
年 月		学 歴		
1976	3	大阪大学人間科学部人間科学科卒業		
1977	4	大阪大学大学院人間科学研究科行動学専攻博士前期課程入学		
1979	3	大阪大学大学院人間科学研究科行動学専攻博士前期課程修了		
1982	3	大阪大学大学院人間科学研究科行動学専攻博士後期課程単位取得退学		
年 月		職 歴		
1976	4	京都家庭裁判所調査官補（1977年1月まで）		
1982	4	大阪大学人間科学部助手		
1988	4	鳴門教育大学学校教育学部講師		
1990	4	鳴門教育大学学校教育学部助教授		
1999	4	鳴門教育大学学校教育学部教授		
2008	4	鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻長 （2010年3月まで）		
2010	4	鳴門教育大学基礎・臨床系教育部長 （2012年3月まで）		
2012	4	鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻長 （2014年3月まで）		
2014	4	鳴門教育大学基礎・臨床系教育部長 （2016年3月まで）		
2016	4	鳴門教育大学理事・副学長（2022年3月まで）		
2022	4	鳴門教育大学学長（現在に至る）		
学 位 ・ 称 号		文学修士（大阪大学）		
専 攻 分 野		学校組織論，学校組織開発論		
所 属 学 会		日本教育経営学会		
学会及び社会 における活動		（学会関係） 日本教育経営学会 理事 （2015年～2024年6月まで） 日本教育経営学会会長（2018年～2021年）		

	(文科省関係) 中央教育審議会初等中等教育分科会 「学校における働き方改革特別部会」 委員 (2017 年 7 月～2019 年 1 月) 中央教育審議会初等中等教育分科会 教員養成部会 「教職課程の基準に関するワーキンググループ」 委員 (2019 年 4 月～2020 年 2 月) 大学設置・学校法人審議会大学設置分科会 「教職大学院特別審査会」 専門委員会 (2017 年 5 月～2020 年 3 月) (国立大学協会・教職員支援機構関係) 国立大学協会 「教員の養成及び研修に果たす国立大学の使命とその将来設計を検討するワーキンググループ」 委員 (2017 年 6 月～2018 年 3 月) 独立行政法人教職員支援機構評議員 (2018 年 4 月～現在に至る) (教育委員会関係) 徳島県教育委員会 「とくしま教員育成協議会」 委員 (2017 年 5 月～2018 年 3 月) 徳島県教育委員会 「教育振興審議会 (第 4 期)」 委員長 (2020 年 12 月～2021 年 2 月) 徳島県教育委員会 「通学区域制に関する有識者会議」 議長 (2024 年 6 月～ 現在に至る) 高知県教育センター 「学校コンサルチーム派遣事業アドバイザー」 (2016 年 4 月～2018 年 3 月) 神戸市教育委員会 教育監理役 (2020 年 3 月～現在に至る)
免許・資格等	高等学校教諭 2 級普通免許状 (社会) (大阪府教育委員会：昭 50 高 2 普第 4843 号) 中学校教諭 1 級普通免許状 (社会) (大阪府教育委員会：昭 50 中 1 普第 4187 号)
賞 罰	鳴門教育大学特別表彰 (2008) 日本教育経営学会功労賞 (2017) 日本教育経営学会実践研究賞 (2020)

備 考 規格は、A 4 とする。

主 要 業 績

氏名 佐古秀一

（教育面）

1988年4月鳴門教育大学に着任して以来、学部教育ならびに大学院教育に従事し、授業と共に学生の研究指導を行ってきた。

特に2008年4月からは、新設の専門職学位課程（教職大学院）において、授業科目の構造化と学修成果の可視化にかんする取組を推進した。教育目標と関連づけた授業科目のマッピング、それを応用した学修成果の評価と授業評価を連動させて実施する仕組みを導入した。あわせて、学修内容を週ごとに記録し学生が振り返るとともに教員がそれを確認する週録システムを導入した。また、現職院生を対象とした実習を、置籍校の学校課題の解決をねらいとする実習（学校課題解決型実習：鳴門モデル）を全国に先駆け企画・実施した。これにより教職大学院の理念である理論と実践の往還を具体化すると共に、院生の資質能力の向上だけでなく学校改善に資する実習体制を整えた。

2013年からは、学卒院生を対象とするコース（教員養成特別コース）に異動し、新任教員の育成指導に関わった。特に教師を目指す院生が自らの授業の省察に基づいて授業観や授業プランを修正していく過程を同僚教員と共に支援し、学生が成長・変容していく過程を経験した。

（研究面）

（最近10カ年間の主要な研究業績）

【著書】

日本教育経営学会編 教育経営における研究と実践,学文社,2018.6.(共著)

日本教育経営学会編 教育経営ハンドブック,学文社,2018.6.(共著)

佐古秀一 学校経営 R-PDCA, 明治図書,2019.3.(単著)

【論文】

佐古秀一 学校組織マネジメント研修プログラムの構成と効果に関する研究（Ⅱ）, 鳴門教育大学学校教育研究紀要, 29, 43-52, 2015.3.

佐古秀一・垣内 守男・松岡 聖士・久保田 美和 学校組織マネジメント を支援する コンサルテーションの実践と成果,鳴門教育大学研究紀要, 30,147-167, 2015.3.

佐古秀一・大林正史・藤井伊佐子 学校マネジメント研修におけるリフレクション喚起型事例検討の展開過程と効果に関する実践研究,鳴門教育大学研究紀要, 31, 99-111, 2016.3.

佐古秀一 学校における働き方改革と教育経営学の課題,日本教育経営学会紀要, 61, 92-100, 2019.6.

佐古秀一 教育組織としての学校のマネジメントを学ぶ,スクールリーダー研究,13, 5-14, 2020.8.

（経営・管理運営面）

2007年には、教職大学院設置準備室室長に任命され、教職大学院の設置に従事した。当初、極めて困難な課題が山積していたが、当時の高橋学長と共に学内外の調整等を精力的に進め、2008年に設置が認可された。2008年からは新設された教職大学院の初代の専攻長、2012年からは再度専攻長に任命されそれぞれ設置直後の専攻の運営とカリキュラム、指導体制等の見直しに従事した。この間の2010年からと2014年か

らは、基礎臨床系教育部の部長に任命され、学部・大学院の教員組織の運営に従事した。

2016 年からは、理事・副学長に任命され、山下前学長の下で大学改革に取り組んできた。具体的には①大学院改組（修士課程の見直しと教職大学院への移行）、②四国地区国立大学の連携（教職員支援機構との連携による四国アライアンスセンターの設置ならびに大学等連携推進法人の設置）、③第 4 期中期目標・計画の策定、⑤教員養成 DX 推進機構に向けた概算要求、等である。

2022 年から学長に就任し、「よい教師を一人でも多く」、「教師教育のトップランナーへ」を掲げ、第 4 期中期目標・計画期間（令和 4～9 年度）における鳴門教育大学の教育研究機能の充実強化に取り組んできた。

（その他）

文部科学省、国立大学協会、教職員支援機構において、教員養成、教員研修、教員養成大学の今後の在り方に関する政策立案や協議に参画してきた。徳島県の学力向上事業や研修の高度化に関する事業に県教育委員会と共に取り組み、県教育委員会との関係構築を図ってきた。地元鳴門市においても、学園都市化構想の実質化などにも市と連携しながら取り組んできた。

備考 ※ 日本語以外の場合は、日本語訳を添付すること。
規格は、A 4 とする。

所 信 表 明 書
(大学の運営に係る構想)

氏名 佐古 秀一

□第4期中期目標・計画の推進：教師教育のトップランナーへ

I 第4期中期目標・計画期間の重点

学長就任と共に始まった令和4年度からの第4期中期目標・計画の達成をこれからも推進し、今後の社会や教育の動向、ならびにこれまでの本学の実績を踏まえながら、引き続き教師教育の先導的役割を担っていく大学づくりに邁進したい。

第4期中期目標・計画の達成に向けて、重点とする事項は以下の5点である。

第4期の重点事項

新構想の教育大学としての役割をふまえつつ、社会の変化、ICTの進展などを取り込み、「教員のための大学」として教育研究機能の強化に努める。

卓越した教員養成功力をもつ大学

- 全国最高水準の教員就職率
- 主体的で探究的学びを基盤とする養成カリキュラムの開発（セルフデザイン型学修）
- 新しい養成教育に適合した教育環境の整備

学び続ける教員を支える大学

- 現職教員が働きながら学ぶことのできる教職大学院遠隔教育プログラム
- 徳島県教育委員会、NITSとの連携による現職教員研修の開発（次世代管理職養成、研修コーディネーター養成）

地域の教育委員会・学校を支える大学

- 地域・学校の課題（ニーズ）に即した学校支援体制の構築（オーダーメイド型学校支援）
- 附属学校におけるSTEAMIC（STEAM for Inclusive and Citizenship）教育の開発と発信

人口減少期の教員養成機能強化を実現する大学

- 広域分散協働型大学連携による連携教職課程（四国5国立大学による教職課程の共有）

教育に関する実践的・基礎的研究を推進する大学

- 教育委員会・学校との共同研究の推進
- 科研費申請支援、新採用教員に対する研究費助成

II 主な実績

1. 卓越した教員養成功力を持つ大学づくり

○令和5年度3月卒業学部生、国立大学教育大学・学部教員就職率第1位（3年ぶり）

○先導的な教師教育の開発実践

- ・学修データのデジタルデータ化とAIを活用したセルフデザイン型学修の開発と実装（令和5年度新入生カリキュラムからカリキュラム改編、令和7年度からセルデザシステム稼働予定）
- ・「教師としての学び方」に重点をおいた初年次科目（「鳴教生の学び方」）の開設（令和5年度から開設）
- ・養成教育の改善を目的とする教職志望変容過程の実態分析（令和5年度から実施）
- ・教室環境の整備（令和6年度着手）

2. 学び続ける教員を支える大学づくり

○教職大学院遠隔プログラムの実施と拡大

- ・令和4年度以降、101名の現職院生の遠隔プログラムによる入学
- ・千葉県教育委員会と本学遠隔プログラム活用に関する覚書締結(令和6年度)
- ・教科・総合系への拡充(令和7年度入学生から)
- NITSの地域センターとしての研修開発
 - ・徳島県教育委員会と連携による「主幹教諭研修」(次世代管理職養成)、「指導教諭研修」「指導主事ファシリテーション能力養成研修」等
- NITSが開設する教員研修プラットフォーム(PLANT)へのコンテンツ提供(令和5年度、12本提供)
- 3. 地域の教育委員会・学校を支える大学づくり
 - 地域のニーズに応え社会的インパクトを産出する学校支援体制の構築と運用
 - ・学校支援に対する外部評価を組み込んだ推進体制(AWA教育シナジープラットフォーム)の構築(令和5年度から)と運用、令和5年度11件の支援活動を認定
 - 附属学校におけるSTEAMIC教育(STEAM for Inclusive Citizenship)の開発
 - ・幼、小、中、特別支援学校がSTEAM教育の目標を共有しながら、連携した教育内容を開発
- 4. 人口減少期の教員養成機能強化
 - 四国地域大学連携ネットワークによる連携教職課程の実施
 - ・令和4年度開設科目5科目、令和5年度開設科目27科目
 - ・魅力化科目の創設(限研吾氏による特別講義など)
- 5. 教育に関する実践的・基礎的研究の推進
 - 教育委員会・学校との共同研究の推進
 - ・令和5年度16件の研究を選定し支援
 - 科研費申請に対するインセンティブ、新規採用教員の研究スタートアップ支援

□今後の教育研究推進について

まず、上記の第4期の重点的な取組を着実に進展させる。
特に、鳴門教育大学のさらなる発展に向けて、以下の諸点に注力したい。

- ### I 新構想大学としての教師教育に関する研究と実践のさらなる強化
1. 今後の教員採用動向を踏まえた教員養成力の強化
 - 教員採用試験の早期化や教員採用数が全国的に見ると減少傾向に転じる趨勢の中で、卓越した教員養成力を持つ大学として、入試制度-養成教育-就職支援事業の一体的な改善を図る。
 2. 次世代の教師教育に関する研究開発力の強化
 - 質の高い教員の確保、育成に関して教員養成大学ならではの高い研究開発力を有し、教師教育(養成-研修を通じた教師の継続的育成)に関する研究知を、全国に発信できる大学へと引き上げたい。
 - 教育におけるAI、データサイエンスの活用に関する研究開発と教師教育への活用を推進する(教師教育における産官学連携によるブレイクスルー)。
 - 次世代の教師教育のモデルとしてのセルフデザイン型学修に関するシステム、カリキュラム、指導体制に関する知見を蓄積し、それを踏まえて教職大学院生、現職教員にも拡大・展開していく。
 - 教師のための遠隔教育システム(教育内容、履修体制、就学支援体制)に関する研究知の蓄積とさらなる充実
 - ・遠隔プログラムの拡充と教育内容の質(実践と理論の融合)の改善

- ・教師が直面している課題や就学実態に即した院生指導や学び方の開発

II 教育組織の見直し

1. 教育組織の見直しと大学院の魅力化

- 大学院、学部のカース制を抜本的に見直し、文理融合、ICT 利活用、AI・DS や探究的な学びなど、これからの教育課題に対応した教育組織に転換し、大学院の魅力化を図る。これに伴い、大学院の教育組織における教員配置等も見直すとともに、大学院入学者の確保につなげたい。

III 社会共創機能の強化

1. 教育委員会・学校との密な連携体制の構築（社会共創体制の整備）

- 教員養成大学の社会共創機能を高めるため、AWA 教育シナジープラットフォームの充実を図る（特に学校支援に関する社会的インパクトの検証方法の開発とそれによる支援活動の改善充実）。
- 学部-教職大学院を活用した力のある新人教員（地域希望教員枠を活用した徳島スーパールーキー教員）の育成体制を教育委員会と共に整備する。

2. 附属学校における STEAMIC 教育の開発と公立学校への展開促進

- 校種間連携を強化した STEAMIC 教育の開発と知見の発信機能の強化

IV 時代を見据えた大学間連携の強化

1. 教員養成に関する大学間連携の強化

- 連携教職課程に関する研究開発機能の強化や共同 FD の実施などにより、教員養成に関する大学間連携の先導的なモデルを開発する。

□大学運営に関する重点

I 組織運営

1. 大学経営を担う人材の育成と登用

- 今後の大学経営を担う人材を育成し、積極的に登用したい。

2. 教職員との対話、情報共有

- 第 4 期の後半においては、コース教員、アドバイザー・コーディネイター、附属学校教員、教職員に対する情報発信だけでなく、対話に努めたい。

II 財務改革・人事改革・働き方改革

1. 重点的な予算配分

- 必要性が不明確でルーティンワーク化している事業（特に学長裁量経費による事業）を見直し、新規事業への資源の重点的な投入を図る。

2. 教職員の効率的な配置

- 教育組織の改編に伴う教員配置の見直し
- 教職員の効率的な配置（定型化した後任補充から必要性に応じた教職員配置へ）

3. 上位職への女性の登用

III 地域社会との接点の拡大

1. AI・DS に関する企業との共同研究の推進や、ネーミングライツの導入などを契機にして、企業との接点を広げていく。

これらの諸施策の遂行により、教師教育のトップランナーを担う大学としてのさらな

る飛躍のための基盤を整えたい。

備考 ※ 学長就任後の抱負・所信を簡潔に記載してください。
日本語以外の場合は、日本語訳を添付すること。
規格は、A4とする。